



# 南極観測隊経験者に インタビュー



18次・25次・32次・37次越冬、英国南極観測隊：1981年

ふじい よしゆき  
**藤井理行さん**

国立極地研究所 / 総合研究大学院大学 名誉教授  
(国立極地研究所前所長)

(2016年7月現在)



## 南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

- \* みずほ基地通年観測(第18次隊):みずほ基地での初の通年越冬により、南極内陸部の斜面下降風帯における気象、  
雪氷学的特性を明らかにした。
- \* 内陸雪氷観測(第25次隊):沿岸部から氷床最内陸部に至る積雪の堆積及び化学特性と気候特性を明らかにした。
- \* 氷床コア掘削(第25次隊、第32次隊、第37次隊):過去の地球環境の復元研究のため、みずほ高原で深さ  
125m、みずほ基地で深さ700m、ドームふじ基地で深さ2503mまでの氷床コアを掘削した。それぞれ、  
過去300年、9,400年、34万年にわたる気候・環境変動の解明に貢献した。



## 初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

高校一年の時に北アルプスで初めて雪渓を、大学四年の時に南米パタゴニアで初めて氷河を目の前に見た時、鳥肌が立った。異次元の世界に感動を超えたのだ。その後、雪と氷の研究の世界に入り、南極を目指した。S16地点で南極氷床に初めて降り立った時、武者震いをした。ここに至るまで、南極のことは、色々と学んでいたもので、異次元の世界ではなかった。これからの一年、この雪と氷の世界で、思う存分研究に没頭できると思うと、妙に嬉しかった。



## 一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

一番印象に残ったこと：みずほ基地の「むらさき御殿」。夏、新しく掘った雪洞がブルーに近い紫色になる。  
水の中にいるようななんとも神秘的な世界だった。

一番うれしかったこと：氷床ドリルの開発に取り掛かってから8年、ドームふじ基地で掘削を始めてから1年半、様々なトラブルを乗り越えて、ようやく深さ2500mに達した。南極で最もうれしかったことは、このプロジェクトに参加した多くの人の夢が叶ったこと、この達成感を現場で味わえたことである。

子供達へのメッセージ：夢を持ち続け、あきらめずにチャレンジしよう。